子どもの学習支援における大学生ボランティアが行う支援の構造について
－ひとり親家庭の子どもに対する学習支援活動の実践から－

社会福祉学専攻　最上　和幸

要　旨

本研究は，ひとり親家庭の子どもの学習支援の取組において，貧困状態にある子どもの力を高めるために大学生ボランティアが行う支援について，大学生ボランティアに対するインタビュー調査から支援の構造を明らかし，考察を加えることを目的とした．

ひとり親家庭の子どもたちを対象に，自主的に行っている学習支援活動に参加する大学生ボランティア及び補助者の６人に対し，半構造化面接の手法によるグループインタビューによってデータ収集を行い，狭義の KJ 法により統合を行った．

その結果，学習支援を構成する要素として，【″外″から″内″へ】，【ナナメの関係】，【エンパワメント】，【みんなの居場所】，【時間による醸成】，【不全感】の６項目が明らかとなり，項目間の関係性から支援の構造が示された．

ここから，①学生が「ナナメの関係」を駆使して，子どもを中心に，タテ・ヨコ・ナナメ上・ナナメ下に立ち位置を変えながら支援していること，②学習支援活動は，学習支援を通じて，貧困状態により育成が阻まれている非認知的スキルを高める活動であり，学力の向上だけでなく，子どもの現在及び将来に向けた生活課題を解決する力を育成していく活動であること，③子どもと学生の１対１の関係を基本とし，それらが一つの大きな集団を形成する学習支援の構造は，学習支援の目的や対象の違いによる葛藤を解決する一つの方法として考えられること，④子どもを対象とする学習支援においては，支援の前提となる対等なパートナーシップの形成には，非専門的で年齢の近い支援者の存在が重要となるものと思われること，が確認された．